

歌仙 『菊の酒』の巻

平成二〇年一〇月 七日 起首
平成二〇年一二月二三日 満尾

- 発句 箸筭に負けて祝ひの菊の酒 重陽 晩秋
- 脇 気合よろしく玉兔跳ねけり 丹仙 三秋・月
- 第三 口笛のマウンテンバイク爽やかに 真奈 三秋
- 四 灯台守に届く速達 笑 雑
- 五 潮の香の白壁続く港町 悦子 雑
- 六 維新の志士の夏羽織ゆく ぽぼな 三夏
- ウ
- 一 若葉風夢見るやうに生れにけり 梶 初夏
- 二 貝に女神の髪は亜麻色 重陽 雑
- 三 フイアンセを裏切り立ちし画家の前 丹仙 雑
- 四 ヒールが脱げてアンニユイの午後 真奈 雑
- 五 九官鳥忽と声上げ部屋の間 笑 雑
- 六 黒雲の出で北窓塞ぎ 悦子 初冬
- 七 政権の交代となる冬の月 ぽぼな 三冬
- 八 ペンキ職人募る貼紙 梶 雑
- 九 エツフェルは世紀をまたぐモニュメント 重陽 雑
- 十 粋の美学は大和にぞある 丹仙 雑
- 十一 まぼろしの菩薩を見しか花の奥 真奈 晩春
- 十二 草の枕に亀の鳴くてふ 笑 三春
- ナオ
- 一 ゆつたりと春の湖上へ水脈を引く 悦子 三春
- 二 わが郷愁は風の全量 ぽぼな 雑
- 三 サークス団解く積荷の三輪車 梶 雑
- 四 跣足で駆ける子らの原っぱ 重陽 三夏
- 五 青揚羽ひらりと誘ふ昼下がり 丹仙 三夏
- 六 五分詰め仕立て着流しのよき 真奈 雑
- 七 芸に惚れ師に禁断の恋心 笑 雑
- 八 携帯番号今日こそゲット 悦子 雑
- 九 淹れたてのエスプレッソを飲み干して ぽぼな 雑
- 十 髭整へる父と黒猫 梶 雑
- 十一 文豪とおなじ月見の団子坂 重陽 仲秋
- 十二 万里悲秋の茱萸色づけり 丹仙 晩秋
- ナウ
- 一 かの駅にはぐれし日々のつづれさせ 真奈 三秋
- 二 魚の目痛し新品の靴 笑 雑
- 三 セリを待つ差配せはしき小名浜港 悦子 雑
- 四 ひたひたとくる春の曙 ぽぼな 三春
- 五 花の雨宿りし軒に結ぶ縁 梶 晩春
- 六 七歩の才の闌けてうららか 執筆 三春